

ひらつか

「このHopeの字は、高山^{ちよぎゆう}樗牛の直筆なんですよ」と、ひらつか文化財ガイドボランティア協会の芝崎泰章さんが説明します。

欧州留学を目前に、結核に倒れた明治の文学者・高山樗牛。当時有数の結核専門療養所・杏雲堂^{きよううんどう}平塚病院に入院し、病室にジョージ・フレデリック・ワッツの絵「Hope（希望）」の複製を飾っていました。

額縁に書き入れた「Hope」の字を心の支えにしていたのでしょうか。明治35（1902）年12月24日、欧州への思いを抱いたまま、32歳の若さで不帰の人となりました。

希望を 残して



目次	1～3面 特集 平塚文学散歩…平塚市ゆかりの文学者と、市内の文学碑などを紹介します。	平塚市の人口と世帯数 <平成24年11月1日現在()内は前月比>	◎発行／平塚市 ◎編集／広報・情報政策課 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号 tel 0463-23-1111 fax 0463-23-9467 http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/	
	4～7面…募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ「すこやかサポート市民病院」	人 口 259,269人…(-102)		
	8面…ヒラツカルチャー「今、会いたい作品」	世帯数 105,386世帯…(+17)		

平塚文学散歩

「文は是に至りて畢竟人也、命也、人生也。」
文章には書き手の人間性や生きる姿勢、人生が如
実に現れるという、高山樗牛の言葉です。

平塚は多くの文学者が訪れ、また、移り住んだま
ちです。ゆかりの場所には文学碑が建てられていま
す。碑に刻まれた一文に文学者の人生を思い、散策
してみてもいかがでしょうか。

文学碑を残した人

「平塚市も、戦災後すでに
十年が経過したから、すこし
はおしゃれのことを考えても
よいのではないか。(中略)と
ころどころに、史跡や名勝の
標柱や説明板を配置すること
が、都市美を形成する上の必
須条件である」と、たびたび
語ったという戸川貞雄。昭和

30(1955)年から2期8年、
平塚市長を務めました。

戸川自身、大正10(1922)

1)年に『蠢く』で文壇に登場

した作家です。数々の文化事

業を展開して「高山樗牛ホー

プの碑」「村井弦齋文学碑」な

ど、多くの文学碑を建てまし

た。戸川が残した碑には「文

人市長」としての思いが込め

られています。



③村井弦齋文学碑
(村井弦齋公園内)

④河井醉茗の文学碑
(須賀公園内)

①高山樗牛ホープの碑と
有島武郎夫妻記念標柱
(高浜公園内)

②高山樗牛遺跡碑



有島武郎

①

有島武郎は妻の安子と結婚。安子は杏雲堂平塚病院で逝去。明治43(1910)年、武者小路実篤や志賀直哉らと雑誌『白樺』に参加し、白樺派と呼ばれる。大正6(1917)年『カインの末裔』を発表。大正12(1923)年没。

写真提供：ニセコ町有島記念館

明治11(1878)年、現在の東京都文京区に生まれる。明治42(1909)年、神尾安子と結婚。安子は杏雲堂平塚病院で逝去。明治43(1910)年、武者小路実篤や志賀直哉らと雑誌『白樺』に参加し、白樺派と呼ばれる。大正6(1917)年『カインの末裔』を発表。大正12(1923)年没。



高山樗牛

①

②

写真提供：鶴岡市教育委員会

明治4(1871)年、現在の山形県鶴岡市に生まれる。明治27(1894)年、読売新聞の懸賞小説に『滝口入道』が入選。上田敏らと『帝国文学』の編集委員を務める。明治33(1900)年、結核の診断を受け大磯などで療養。杏雲堂平塚病院に入院中の明治35(1902)年没。

結核療養の地・平塚

堀辰雄の『風立ちぬ』などに代表される、サナトリウム(療養所)を舞台にした文学。悲劇的な物語が示すように、当時、結核は不治の病でした。

明治29(1896)年に、現在の袖ヶ浜周辺に建てられた結核専門の療養所・杏雲堂平塚病院。『杏雲堂病院百年史』によると、空気や地下水、地質などが結核療養に適しているとして、平塚が選ばれました。

肺結核で入院した高山樗牛は、一説では袖ヶ浜の地名の由来になったとも言われる『わがそでの記』で「わ

れ病にかかり、ここにまことの人生を見せめきと心境を語っています。

有島武郎は妻の安子と杏雲堂平塚病院に入院させました。代表作の『或る女』では、樗牛を「当時天才の名を擅まにした」と評しています。また大正6(1917)年の『平凡人の手紙』では、武郎が安子のために、村井弦齋の家に食事療法を教わりに行く一節が登場しています。

現在、高山樗牛ホープの碑と有島武郎夫妻の記念標柱が、高浜公園(地図①)に並んで置かれています。

平塚の魅力伝える

市の歴史や文化財などの魅力を伝える、ひらつか文化財ガイドボランティア協会。文化資源を巡るガイドツアーを、ほぼ毎月開催しています。



薬丸薫 会長は「市の歴史や文化資源を皆さんに知ってもらおうと、健康ウオークも兼ねているんですよ」とガイドツアーの狙いを話します。参加者が無理なく楽しめるよう、4キロを3時間程度かけて歩けるようコースを設定しています。

ガイドボランティアは、ガイドツアーの本番までに試し歩きをします。3回程度現地を歩き、道順や説明時間などを確認します。分かりやすく楽しい解説ができるように、実際に資料を使いながら模擬解説をし、お互いに意見を出し合います。

本番当日は、資料・マイク・協会の旗・班の旗・ジャンパー・腕章・名札といった『ガイドボランティアの七つ道具』を携えてツアーに臨みます。参加者に配る説明資料は手作り、地図や写真を交えるなど見やすく工夫されています。

薬丸会長は「これまでの8年間で作成したガイドコースは22に及びます。市内の文化財はくまなく網羅しました」と、胸を張



▲本番前日の試歩確認
▲ガイドツアーの内容が分かりやすいように、説明資料は手作り

名ガイドがご案内

ひらつか文化財ガイドボランティア協会

ります。ある会員は「昔作成したコースでも、勉強を重ねるうちに解説は変わってきます。だから、ガイドツアーは回を重ねるごとに内容が濃くなっていくんですよ」と話します。「一度参加して終わりの話ではなく、何度も参加していただくと、また新たな発見ができると思います」。

新規開拓で充実図る

この会の始まりは、平成13(2001)年に市教育委員会が開いた文化財解説ボランティア養成講座です。講座の参加者が平成16年10月に会を発足させ、半年の準備期間を経て、平成17年4月から本格的に活動を開始しました。現在の会員数は22人。60(70)歳代が中心ですが、学生や現役世代の会員も活躍しています。

「新しいコースを開拓していくために、今回『新ガイドコース作成部会』を立ち上げました」と、ツアーコースの充実へ意欲を見せる薬丸会長。12月16日(日)に実施する平塚文学・芸術散歩(詳細は3面下囲み)は、この部会が作成したコースを歩く初めての機会です。また、文学や芸術にテーマを絞った解説をするのも初めての試みです。

「平塚にゆかりのある文人は結構いるんです。泉鏡花が題材に取り上げた真土事件の碑や、歌舞伎の題材となったお初墓など、紹介したいスポットがまだまだたくさんあります」と薬丸会長。市内には文学者の碑やゆかりの場所が点在していますが、歩いて無理なく回れるよう、今回は駅の南側周辺に絞り込んでコースを作成しました。

個人で回るよりも、解説を聞きながら歩く方が知識が深まること間違いなし。皆さんもガイドツアーに参加してみませんか。

◆ガイドボランティア募集

「文化財」と聞くとも難しい印象を受けるかもしれませんが、特別な知識は不要です。誰でも気軽に参加を。お問い合わせは社会教育課 ☎35-8124へ。

今に伝わる 食の大切さ

広大な敷地に暮らす

平塚駅南口のほど近くに、松に囲まれた一角があります。村井弦齋の邸宅跡につくられた村井弦齋公園(地図③)です。この公園では毎年秋に村井弦齋まつりが開かれ、弦齋の人物像や功績が伝え続けられています。

弦齋が明治36年に報知新聞に連載した小説『食道楽』は、30版10万部のベストセラーでした。「メタボ」な大原満と料理上手なお登和の結婚を巡る騒動に、料理のレシピが数多く織り交ぜられるという、奇抜な構成の物語です。日露戦争より前に書かれたこの話には、フォアグラやトリュフ、ワッフル、タピオカなどが登場しています。

『食道楽』で多額の印税を手にした弦齋は、現在の八重咲町周辺に1万6400坪の土地を買い入れ、邸宅を構えます。市博物館の発行する『時代の先駆者 よみがえる村井弦齋』によると、広大な敷地内でアスパラガスやアーティチョーク、黄スイカなど、当

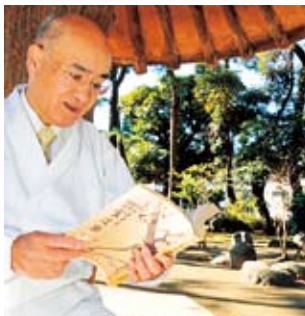
時珍しい西洋野菜や果物を栽培していたといわれています。

大ベストセラー作家

弦齋まつりに関わる村井弦齋の会の鳥海義晃さんは「当時は嫁入り道具の一つとして、食道楽を持つのが流行したそうですよ」と、語りま

その流行ぶりは、ほかの作家の作品からもうかがい知れます。文豪・夏目漱石の『琴のそら音』では、面白い本を読んで笑い出した人に対して「何だい小説か、食道楽ぢやねえか」と、話す場面が登場しています。

歌人の伊藤左千夫は『茶の湯の手帳』で「家庭料理と云ひ食道楽と云ひ、随分流行を極めて居るらしいが」と述べ、評論家の内田魯庵は『魯庵随筆氣紛れ日記』の「よく売れた小説と文士の収入及び生活」で、日本をよく売れた本として食道楽を挙げています。



冬に『食道楽』を海鳥園で読む村井弦齋の巻

グルメ小説にあらず

『食道楽』の内容は、単なるレシピ本やグルメ本の域に留まりません。食材の栄養学的



効能や伝統料理の歴史的背景、食材の見分け方、衛生学など、食生活のありとあらゆる事柄に言及しています。

弦齋は、海外向けに発行した小説『HANA A DAUGHTER OF JAPAN』の著者略歴で『食道楽』を「Pleasures of House-keeping(家事の楽しみ)」と訳

今に続く弦齋の教え

「弦齋は病気を治す疾医より、食事で病気を予防する食医をつくるべきだと書いています。バランスの取れた食事を家庭で作ることの重要性を説いているんですよ」と解説する鳥海さん。「外食や出来合いのおそうざいが多い現代は、食事を作る習慣が薄れつつあるのではないのでしょうか」と憂慮します。

「弦齋は食習慣やカロリーについても指摘していて、現代に通じる内容もたくさんあります。彼が語りたかったことを、これからも伝えていきたいと思っています」

中勘助



写真提供：静岡市

明治18(1885)年、現在の東京都千代田区に生まれる。大正2(1913)年、恩師夏目漱石の推薦で東京朝日新聞に小説『銀の匙』を連載する。大正13(1924)年から約8年、現在の龍城ヶ丘付近に住む。昭和7(1932)年、平塚の日々を書いた『しづかな流』を発行。昭和40(1965)年没。

静かな 平塚暮らし

中勘助の小説『銀の匙』を3年間掛けて読ませるといって、名門校の元教師のユニークな授業。その内容を記した新書が今年大きな脚光を浴びたことを、記憶している方も多



勘助も歩いた海岸を歩く飯尾さん

平塚に居を構えた勘助。昭和7(1932)年に発行された『しづかな流』は、平塚でのつれづれの記に、詩や短歌を織り交ぜた一編です。文中には、十数年ぶりに『銀の匙』の文章に手を入れた、という一節も登場しています。

飯尾さんは「読んでみると、何気ない平塚の風景も違って見えてきます」と微笑みます。「動植物を優しい目で見つけた勘助。彼が残してくれた多くの素晴らしい詩や歌は、平塚の財産ですね」。

平成15年に文化財団(現在の文化スポーツまちづくり振興財団)が開いた講座「平塚文化塾」で、中勘助と『しづかな流』を市民が研究しました。当時の担当者の飯尾紀彦さんは「この本からは、勘助の暮

河井醉茗

詩人。明治7(1874)年、現在の大阪府堺市に生まれる。明治38(1905)年、詩集『塔影』を出版。大正11(1922)年、現在の太平洋中学校付近に移り住み大正14(1925)年まで過ごす。昭和40(1965)年没。須賀公園(地図④)の碑に「平塚は新しい町だ」という一節が刻まれている。



ご当地ソング作詞する

『からたちの花』など、今でも親しまれている作品を生んだ詩人・北原白秋。明治37(1904)年に上京した白秋は、長編詩『林下の黙想』を河井醉茗に激賞されます。昭和4(1929)年、有志に招かれ平塚に滞在し「平塚音頭」と「平塚小唄」を作詞したとい



レコードを持つ平塚白秋

湘南平塚白秋の会の古賀信也さんは、白秋と同じ福岡県柳川市の出身です。「平塚小唄の歌詞を見ると、昔の平塚の情景が想像できます」と、目を細めます。平塚小唄には、遠浅だった平塚海岸や桃栽培の様子などが描かれています。「作詞された昭

白秋の書いた数少ない小説『よぼよぼ順礼』でも平塚が登場しています。「金目の観世音は花水川の清らかな流れの向うにあつた」など当時の情景が描写されています。現在、自分の平塚共済病院内に、白秋の詩碑が建っています。

北原白秋



写真提供：小田原市立図書館

明治18(1885)年、現在の福岡県柳川市に生まれる。明治42(1909)年に詩集『邪宗門』を発表。昭和17(1942)年没。



参加者募集中

ガイドと巡る平塚の文化資源 平塚文学・芸術 散歩コース

平塚駅南側の、文学者や芸術家にゆかりのある場所を歩きます。村井弦齋公園、高山樗牛文学碑、杏雲堂跡、河井醉茗文学碑など、ガイドボランティアの解説を聞いて、知識を深めてみませんか。

12月16日(日)午前9時30分～午後0時30分。4・4キロ。荒天中止。JA平塚ビル前集合(八重咲町3-8)。300円。中学生以下は無料。募集はがきで、コース名と全員の住所・氏名を、12月9日(日)までに、〒254-0051豊原町2-21社会教育課☎35-8124へ。